

“箱根”セミナー20回目にあたって

ついにこのセミナーも20回を迎えることになりました。10回目の時にも述べたように“箱根”セミナーと“”がつくのは最初の頃、箱根（原荘）、大磯アカデミーハウス、神戸ひょうご共済会館、伊東（相模工大一碧荘）と転々としたからです。しかし第7回目からは快適性と全国から集まるときの交通の至便さから、ずっと東洋大学箱根保養所になり、東洋大学の山下さんには、お世話になりっぱなしです。山下さんと事務を取りまとめて下さっている専修大学の津久井さんには深く感謝する次第です。お二人がいなかったら、このセミナーもどうなっていたかわかりません。

さて、この10年で何が変わったか。メンバーは8,9回目あたりでかなり増えましたが、その後はそう変わっていないようで、むしろ近年は雑事にかかわる年齢になったせいakaセミナー期間中に出入りがある方が気になるようになり、研究対象（というか研究方法）も大体固定されてきているようです。しかしやはり変わったものはありました。今1987年と、1996年のセミナー記録を見ているのですが、なんと本間先生以外は皆手書きの原稿からワープロの原稿に変わっているではないですか。やはり10年という歳月はそれなりの、取り返しのつかない長さなのでしょう。土肥さんにももう会えなくなりました。トポロジーの低次元関係のシンポジウムに出席しても最近は年齢的にトップクラスになり、それも飛び抜けているものですから合宿形式のシンポジウムでは部屋割り等では妙に気を使ってしまいます。その点このセミナーは有り難く、実際はかなり年齢差があるのでしょうか。この10年来部屋割り等しなくても大よそ決まっているようですし、時代からずれきっていることも今に始まったことではないし、途中で話の腰を折るといふことも残っているし・・・、私は10年位前は50代も半ばになれば、朝から晩まで数学の話をし、酒を飲み交わす、こんなしんどいセミナーは終わりになるだろうと思っていました。しかし時代は変わり、数学の内容はともかく合宿形式のシンポジウム、セミナーの何と増えたことか。気がついたらやはり時代の先端を走っていたというのはどうやら事実のようです。ということで、これからも健康に留意しながら、皆さんの協力の下、末永くこのセミナーを続けていきたいと考えています。

1997年11月

小林 一章